

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	10
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		4
4. 理念を実践するための体制		3
5. 人材の育成と支援		1
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		7
1. その人らしい暮らしの支援		5
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		23

事業所番号	1492300403
法人名	株式会社ツクイ
事業所名	ツクイ小田原富水グループホーム
訪問調査日	令和8年2月13日
評価確定日	令和8年3月2日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は23項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [次ステップに向けて期待したい内容]
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

令和7年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492300403	事業の開始年月日	平成18年3月1日
		指定年月日	令和2年10月1日
法人名	株式会社ツクイ		
事業所名	ツクイ小田原富水グループホーム		
所在地	神奈川県小田原市新屋8-1		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和8年2月3日	評価結果 市町村受理日	令和8年3月3日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症の方がいつまでも自分らしく安定した生活を過ごして頂けるように、家庭的な環境と地域住人との交流を心がけています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒231-0023 横浜市中区山下町74-1 大和地所ビル9F		
訪問調査日	令和8年2月13日	評価機関 評価決定日	令和8年3月2日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所は株式会社ツクイの経営です。株式会社ツクイと株式会社SOYOKAZEは2023年7月に業務提携を締結し、MBKパートナーズ傘下のグループとして、介護事業の連携を強化するとともに「ツクイ」と「SOYOKAZE」のブランドを維持しつつノウハウを共有し、国内最大規模の在宅介護グループとしてデイサービスや施設介護等の幅広い介護サービスの提供を目指しています。ツクイ小田原富水事業所は、小田急線「富水駅」から徒歩10分ほどの、自然も残る住宅地にあり、近隣には稲荷神社や畑があります。

●管理者は、入居者が退屈して過ごすことの無いよう、小田原市が推奨するスケッチャーを活用し、短歌等の有償ボランティアの受け入れをしています。また、地域のボランティアの協力で己書(おのれしょ)を入居者と制作し、個性的な作品を壁に貼りだすなどレクリエーションに力を入れています。グループホーム連絡会主体のRUN伴にも参加し、ゴールセレモニーとして開催された「のど自慢」には施設全員で参加し、楽しい時間を過ごしました。

●地域との交流では、隣接する広場でのラジオ体操や夏祭り、敬老会の寄席等に参加、また自治会の文化祭にも貼り絵や編み物の作品を出品し、入居者と一緒に見学に行くなど、積極的に交流を心がけています。

●法人に研修専門の部門があり、年間計画のもと職員の能力に応じた研修により、資質向上に努めています。事業所ではEケアラボで、身体拘束・高齢者虐待防止・接遇等の研修を行い知識と理解を深めています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	ツクイ小田原富水グループホーム
ユニット名	梅

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
		○	3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営理念・社訓・ツクイの行動宣言を事務所や更衣室に掲示している。 事業所独自の基本理念は各フロアと玄関に掲示し、職員が意識出来るようにしている。	法人の経営理念・社訓・行動宣言・事業所独自のユニット理念（年度ごとに職員で話し合っ決めていく）を玄関や事務所、各フロアに掲示しています。これらの理念等は、入職時のオリエンテーションで伝えていますが、申し送り時や会議等で折に触れて話すようにして、再周知しています。		今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年は小学校の訪問はなく、自治会のラジオ体操や夏祭り、敬老会で寄席に参加。グループホーム連絡会主体で実施しているRUN伴にも参加しています。その際にけやきホールでのど自慢を実施し、施設全員で朝から閉会までけやきホールに行きました。自治会主体の文化祭にも作品をいくつか提出しています。	隣接する広場（一時避難場所）で行われる自治会のラジオ体操や夏祭り、敬老会での寄席に参加したり、自治会主体の文化祭にも貼り絵や編み物の作品を出展し、入居者と見学にも行っています。自治会長から、公民館に移動スーパーが来ることを教えていただいたり、ボランティアさんに己書を教えていただくなど、積極的に外部との関わりをもつようにして、交流を図っています。		今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小田原市が推奨しているスケッターを活用し、地域の有償ボランティアの受け入れをしています。レクや花壇の植栽などを依頼中。また、地域で活動している方のご協力、己書のボランティアさんも来て頂けることになっています。引き続き地域の方たちに認知症の方たちの理解を深めて頂けるようにしていきます。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月に変わらず実施しております。毎回、ご家族様、自治会長様、民生委員様、地域包括のCMさんたちの参加を頂き、活動報告と事業所内の雰囲気を見て頂いております。	自治会長・地域包括支援センター職員・民生委員・ご家族の参加で、2ヶ月に1回開催しています。各ユニット交互に開催することで、ユニットの雰囲気も感じていただくようにしています。事業所の現状や活動報告をはじめ、参加メンバーの方から地域行事やボランティアなどの情報を教えていただき、取り入れるようにしています。		今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	変わらずにメールが主流となっております。その他は、グループホーム連絡会からのお知らせで情報共有させて頂いております。	介護保険や報酬改定があった際には、市に出向き説明を受けています。集団指導や研修は動画で受講しています。小田原市のグループホーム連絡会に加入し、会合は対面で年4回実施しています。またRUN伴や、のど自慢などのイベントにも施設全員で参加しました。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	Eケアラボで年2回、「身体拘束禁止・高齢者虐待防止」の研修視聴と2か月に1回身体拘束委員会を開催し、虐待チェックリストと不適切ケアチェックシートも合わせて行う。	「身体拘束禁止委員会」を設置し、2ヶ月に1回カンファレンスに合わせて開催しています。事例検討やその時に必要な研修も取り入れ、職員と話し合っています。指針やマニュアルも整備し、虐待チェックリストと不適切ケアチェックシートも合わせて行うようにして、身体拘束をしないケアに努めています。	今後の継続
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	Eケアラボで年2回、「身体拘束禁止・高齢者虐待防止」の研修視聴と2か月に1回身体拘束委員会を開催し、施設内のフロアと廊下にクラウドカメラを設置。事故防止や虐待防止に努めています。	Eケアラボで年2回「身体拘束禁止・高齢者虐待防止」の研修視聴をしています。指針やマニュアルも整備し、身体拘束禁止委員会に合わせて、虐待の防止についても話し合っています。職員がストレスを溜めないよう、管理者は職員の話聞くなどして、不適切ケアの未然防止に努めています。	今後の継続
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「倫理・法令順守・プライバシー保護」についての研修をEケアラボにて研修を実施。必要時に相談や支援が出来るようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書の内容についての説明を行い、お客様のご家族に十分理解して頂いた上で同意を頂いている。変更が生じる際にはあらかじめご家族に通知してから、変更合意書を遅延なく交わしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からお客様やご家族様とのコミュニケーションを図り、運営推進会議や外部評価のアンケート等でも意見を抽出出来るように心掛けている。また、訪問時やご家族からの要望やご意見があった際には記録を残し、申し送り等でも共有するようにしている。	日頃から家族とは来訪時や、LINE・電話等でコミュニケーションを図り、運営推進会議でも意見を伺っています。「ツクイ便り」を毎月送付し、何かあれば電話で連絡を取っています。法人で顧客満足度調査を年1回実施しており、結果を職員にも共有しながら、サービスの向上に努めています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から会話ができるように心掛けていて、職員の意見は取り入れるようにしている。個人面談も定期的実施し、状況把握と環境整備に努めている。	職員は出勤時、必ず事務所に顔を出すので、様子なども把握でき、コミュニケーションを心掛けています。毎月のフロア会議に参加し、職員の意見や提案を表出できる機会を設けるなど、風通しの良い職場環境に努めています。定期的に個別面談も実施し話を聴いています。	今後の継続
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	なかなか職員のやりがいや、各自が向上心を持って働ける職場環境づくりが出来ていない。今後も課題としてしっかりと改善していきたい。	早番のみや夜勤無し等、職員の事情を考慮したライフワークバランスに配慮しています。管理者は職員の苦手な事・得意な事を把握し、向上心を持って働けるよう努めています。法人でコールセンターを設けるなど、職員のメンタルヘルス対策も講じられています。	今後の継続
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新卒プロジェクトは継続していて、今年度は事業所でも把握が出来ている。障害者雇用のスタッフも順調に成長しており、今後が期待される。	法人本社に研修専門の部門があり、新卒プロジェクトは本社主導で行っています。新入社員向けにはオリエンテーション(ツクスキ)制度があり、接遇等の研修や福利厚生の説明があります。毎月の事業所研修はEケアラボ(動画視聴研修)を活用しながら、様々なテーマで行っています。	今後の継続
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会で、イベントや情報共有に努めている。今年も実行役員をやっており、RUN伴や認知しよう会など積極的に活動に参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前からお客様の生活歴を聞き取り、その方のニーズを抽出して職員全体に共有する。施設で役割を見つけて過ごして頂けるように、日々お客様の状態変化に気付けるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には内覧に来て頂いてますので、困りごとや入居されて希望されるの聞き取りをしている。入居されてからはお便りで施設風景を伝えられるように工夫と、必要に応じてご家族への連絡は行い常に情報共有に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	内覧時に色々な角度からの聞き取りを行い、何を必要としていて何ができどんな支援が必要なのかを確認している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしさを尊重し、出来る事を継続していけるよう信頼関係を築くように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や連絡があった際に、面会の設定、ご要望があった時には申し送りやタブレットで共有出来るように努めている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時の説明の際に馴染みあるものはお持ち頂けること、面会は感染症が流行らない限りは気軽に来て頂けるように心掛けています。	入居時に、気兼ねなく面会に来ていただけるよう声掛けをすることで、家族との関係が希薄にならないよう支援しています。現在は居室で面会をしていただき、外出や外食にも自由に行っていただいています。正月に外泊された方や、年賀状のやり取りをしている方もおり、事業所では必要な支援を行っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士の関係性に配慮しながら、各自が活動できる空間づくりを心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了してしまうと、なかなか関係性の継続は難しいですが別の家族の方がお困りの際には積極的に応えできるように努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の思いや要望を日頃から聞き取れるようにコミュニケーションを大切にしています。毎日の申し送りやカンファレンスで情報共有できるように努めている。会話が困難な方などは表情や行動などで感情を読み取れるように努めています。	入居前面談は、管理者とフロア担当で訪問し、過去の生活歴・既往症・趣味嗜好・暮らし方の希望について話を伺い、アセスメントシートを作成し、職員と情報を共有しています。会話が困難な方でも、単語なら理解できることもあり、思いや意向が汲み取れるよう努めています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に出来るかぎり把握するようにし、入居後は面会時やお電話でご家族様から施設で必要とする生活歴を伺わせてもらう。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの様子を把握し、午前と午後に取り組む活動を個別に対応できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護スタッフが中心となり、介護記録や日々の申し送りから課題やケアのあり方をカンファレンスや申し送りの中で検討し、お客様やご家族様の意向と医療職の意見を鑑みて作成している。	入居時は、アセスメントシートを基に初回の介護計画を作成しています。初回の介護計画は概ね3ヶ月を目安に様子を見た後、ケアカンファレンスを開催し、アセスメントとモニタリングを行ったうえで、現状に即した介護計画を作成しています。短期3か月、長期1年での見直しを基本とし、見直し時期には事前に家族からの要望や必要に応じて主治医の意見も盛り込んでいます。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りはタブレットで確認出来るので、情報共有のツールとして引き続き上手に活用していく。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別のニーズに柔軟な対応が出来るように、日々スタッフと話し合いながら取り組むように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度は夏祭りや敬老会の寄席、RUN伴で主催したのど自慢に参加。様々なボランティアも読んで、お客様満足に努めている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医（内科、歯科、眼科）の定期往診を受け、ご本人の代わりに相談やお客様のご家族様へ報告を行いながら、急変時のドクターコールも対応できている。	契約時に事業所の協力医療機関について説明し、納得していただいた上で事業所の往診医に切り替えています。内科の往診は月2回あり、その際には看護師・薬剤師も同行しています。歯科は、必要な方のみ契約して、口腔ケアや必要な処置を受けています。主治医とは24時間オンコール体制が確立しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	タブレット内の介護記録とバイタルチェックシートからお客様の体調変化が読み取れるように記載し、週1回看護師がお客様の状態の確認をし変調がある場合は医師との共有に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医に相談・助言をもらいながら、お客様のご家族様が入院医療機関関係者と、早期退院に向けた話し合いに努めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に「重度化した場合の対応に係る指針」を説明し、看取りの対応に備えている。お客様のご家族様と終末期に向けた話し合いを医療機関の協力を得ながら適宜行い、看取りケアを行えるように努めています。	契約時に「重度化した場合の対応に係る指針」を基に事業所の方針を伝え、同意書を取り交わしています。事業所では、看取りまでを行う方針であり、重度化した際には、主治医・家族・管理者による話し合いの場を設け、改めて家族の意向を確認しています。家族が事業所での看取りを希望された場合には、医療機関と連携しながら終末期ケアに臨んでいます。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変に対するマニュアル作成および「介護事故発生時および緊急時の対応」事業所研修を実施し知識を職員間で共有している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害対策マニュアルおよび計画を作成している。非常災害対応研修を実施したり、消防計画に基づき年2回の避難訓練を行っている。消火設備点検や非常食・飲料水・物品の備蓄の確認をしている。	災害対策マニュアル及び計画（BCP）を作成しています。火災想定避難訓練を年2回、1回は垂直訓練を行っています。入居者も部屋に用意されているヘルメットとマスクを着用し入口までの訓練に参加しています。発電機とAEDの用意があります。備蓄品は必要な物や期限を精査しながら補充しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃のケアで不適切な言葉かけや対応がなされていないか、定期的にチェックリストを実施している。職員同士も気を配り、介護の基本であるお客様の尊厳について事例などを用いて具体的に取り組みをしている。	社訓の「顧客重視・個人尊重」を介護の礎にし、「接遇マナー・プライバシー保護」に関する研修を実施しています。ユニットの理念でも「ご本人の意思を尊重し、その人らしい暮らしが出来るよう支援します」と謳っています。不適切ケアの自己点検を実施し、振り返りも行っています。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃ご本人がどうしたいのかを最優先に考え、自己決定を尊重するようにしている。職員の都合でどうすべきかを誘導するのではなく、お客様ご本人の思いに寄り添えるケアに努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースでケア行わないように心掛けています。安心、安全に生活できる環境を提供し、気持ちよく過ごせるよう常に心掛けている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った身だしなみや整容に興味を持っていただけるように心掛けている。朝一番にホットタオルを提供し、気持ち良くスタート出来るよう努めている。			
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛りつけや食器選びをして、温かい食事を美味しく召し上がって頂けるように心掛けていて、楽しく食べられる雰囲気作りに努めている。	ご飯と味噌汁は事業所で準備し、副菜は法人の管理栄養士の計算のもと、調理された食材を調達しています。QOLの観点からも食べる楽しみを大切にし、バレンタインにはチョコレートフォンデュ、元力士を招いてのちゃんこ鍋等のイベントを行い、入居者と共に職員も楽しみました。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や食事形態を考慮した食材・飲料の提供を心掛けている。定期的な血液検査から食事のコントロールや体重の増減などから栄養摂取状況を把握し、主治医に相談している。水分摂取量もチェックし、不足が見られる場合は飲みやすい飲料（多量類）で水分補給に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア誘導・介助、義歯洗浄を実施している。また、義歯紛失の恐れがあるお客様の義歯を一時お預かりしたり、夜間は義歯洗浄剤を使用し管理を行う。希望者は週1回の歯科往診を受け、口腔ケアや口腔の状態を確認して頂き嚥下機能維持に努めている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を確認しながらその方に合わせて誘導を促したり、食事やお茶の前後に誘導するようにしている。排泄表に基づきカンファレンスで検討し、個別に誘導のタイミングを試みている。	全員の排泄チェック表を記録し、一人ひとりの排泄パターンの把握に努めています。日中はトイレでの排泄を基本とし、時間やタイミングを見て声掛けし、トイレでの排泄につなげています。自分の意思で行かれる方には、お聞きするか、さり気なく確認をして記録をつけています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医相談のうえ、下剤の服薬で排便を促す方と乳製品の提供および水分摂取表で最低1L/日程度の直接水分摂取に取り組んでいる。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回の入浴機会を提供している。浴槽に入れないうお客様はシャワー浴になるが、身体を冷やさないうタオルを背部や膝元に掛けるなど個々に応じた入浴支援に努めている。	週2回、午前中を基本とした入浴の支援を行っています。自立の方は、午後も配慮しています。法人のデイサービスでレクを一緒に行い、機械浴を借りて、入浴していただいたこともあります。季節のゆず湯、菖蒲湯などで季節感を楽しんでいただけるよう支援しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はフロアで過ごしていただくように促し、体操やレクを行っています。昼夜逆転をしないように努め、遅番・夜勤職員が相互協力して、ご本人のペースで居室（ベッド）に入れるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用薬は提携薬局で1週間曜日ごとに服薬管理箱を用意、倉庫（鍵付）にて保管。毎日、倉庫から担当職員が持っていく。介助時、ダブルチェック（当日パートナー）して誤薬・落薬に留意し、服薬後口腔内の確認。本人に合った形態で服薬できるよう主治医・薬剤師に相談している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事（食器拭き・洗濯物干し畳み・掃除等）はお客様ご本人に合った事を提供し気分転換の支援を心掛けている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事（花見や地域イベント）では、戸外に出かけられるよう支援している。今年度はツクイのデーサービスに遊びに行かせてもらい機械浴を体験しています。また、けやきホールに1日外出。RUN伴イベントののど自慢に全員で参加致しました。もっと出掛ける機会を検討していく。	年間行事を立て、計画に基づいて戸外に出かけられるよう支援しています。近くの稲荷神社に初詣に出かけ、桜の時期には庭のベンチで花見をしています。自治会のラジオ体操や夏祭りに参加したり、RUN伴のイベントで行われた「けやきホール」でののど自慢に全員で参加するなど出かける機会を増やすよう努めています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	社内規則により施設で金銭管理はできないため、お金の所持はない。ご本人要望の物品はお客様のご家族様同意のうえ、立替金で用意する。お客様ご本人の趣味嗜好は、ご家族様をお願いして用意している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お客様の要望により電話の取り次ぎや郵便の依頼があった場合、（お客様ご家族様の許可があれば）対応している。			
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	10月頃からスケッターを利用して、有償ボランティアに来てもらい短歌や落語など行っている。席の配置を工夫したり、お客様の動線確保に努め過ごしやすい空間作りに努めている。	共有空間は整理整頓を心がけ、アルコール消毒、空調、加湿器等で入居者が快適に過ごせる様配慮しています。フロアでは自由に過ごしていただきたいと、カーテンを開けて外の光を感じてもらえるよう心掛けています。壁には、ボランティアの方の協力で作成した短歌や己書の作品、塗り絵などが貼られています。		今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の時間を持てるような席の配置をしている。また、新聞、雑誌をご提供させて頂き、興味のある方には読んで頂いている。			
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はエアコン・換気扇・カーテン・クローゼットのみ設置で、家具・寝具・写真・置物など使い慣れたものや馴染みのものを自由にお持ち頂き配置している。	エアコン・カーテン・換気扇・クローゼットが各居室に完備されており、自宅で使い慣れた物や馴染みの物を持ち込んでいただくよう伝えています。家族写真やタンスなどの調度品を置かれ、居心地よく過ごせる様配慮しています。季節ごとの衣替えは、家族にお願いしています。		今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お客様が安心安全に過ごせる動線作りを心掛けています。玄関には少し休憩が出来るようなテーブルと椅子や履物を交換しやすいよう椅子も設置している。			

目 標 達 成 計 画

事業所

ツクイ小田原富水グループホーム

作成日

令和8年2月13日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	54	お客様が落ち着いて過ごせる空間づくりが出来ていない	1人ひとりに合ったリズムづくり	居室担当は聞き取りから始めお客様の意向調査と空間づくりまでを考えて行く。	12か月
2	43	排泄介助の自立支援の促進	日中のトイレに行けるようにする	排泄、排便リズムを把握していく	12か月
3	39	女性のお客様に対するおしゃれに関する支援が出来ていない。	お誕生日にお化粧品などのプレゼントをする	居室担当はお誕生日にコンセプトを決める。	12か月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	ツクイ小田原富水グループホーム
ユニット名	さくら

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営理念・社訓・ツクイの行動宣言を事務所や更衣室に掲示している。 事業所独自の基本理念は各フロアと玄関に掲示し、職員が意識出来るようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年は小学校の訪問はなく、自治会のラジオ体操や夏祭り、敬老会で寄席に参加。グループホーム連絡会主体で実施しているRUN伴にも参加しています。その際にけやきホールでのど自慢を実施し、施設全員で朝から閉会までけやきホールに行きました。自治会主体の文化祭にも作品をいくつか提出しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小田原市が推奨しているスケッターを活用し、地域の有償ボランティアの受け入れをしています。レクや花壇の植栽などを依頼中。また、地域で活動している方のご協力で、己書のボランティアさんも来て頂けることになっています。引き続き地域の方たちに認知症の方たちの理解を深めて頂けるようにしていきます。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月に変わらず実施しております。毎回、ご家族様、自治会長様、民生委員様、地域包括のCMさんたちの参加を頂き、活動報告と事業所内の雰囲気を見て頂いております。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	変わらずにメールが主流となっております。その他は、グループホーム連絡会からのお知らせで情報共有させて頂いております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	Eケアラボで年2回、「身体拘束禁止・高齢者虐待防止」の研修視聴と2か月に1回身体拘束委員会を開催し、虐待チェックリストと不適切ケアチェックシートも合わせて行う。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	Eケアラボで年2回、「身体拘束禁止・高齢者虐待防止」の研修視聴と2か月に1回身体拘束委員会を開催し、施設内のフロアと廊下にクラウドカメラを設置。事故防止や虐待防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「倫理・法令順守・プライバシー保護」についての研修をEケアラボにて研修を実施。必要時に相談や支援が出来るようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書の内容についての説明を行い、お客様のご家族に十分理解して頂いた上で同意を頂いている。変更が生じる際にはあらかじめご家族に通知してから、変更合意書を遅延なく交わしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からお客様やご家族様とのコミュニケーションを図り、運営推進会議や外部評価のアンケート等でも意見を抽出出来るように心掛けている。また、訪問時やご家族からの要望やご意見があった際には記録を残し、申し送り等でも共有するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から会話が出来るように心掛けていて、職員の意見は取り入れるようにしている。個人面談も定期的を実施し、状況把握と環境整備に努めている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	なかなか職員のやりがいや、各自が向上心を持って働ける職場環境づくりが出来ていない。今後も課題としてしっかりと改善していきたい。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新卒プロジェクトは継続していて、今年度は事業所でも把握が出来ている。障害者雇用のスタッフも順調に成長しており、今後が期待される。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会で、イベントや情報共有に努めている。今年も実行役員をやっており、RUN伴や認知しよう会など積極的に活動に参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前からお客様の生活歴を聞き取り、その方のニーズを抽出して職員全体に共有する。施設で役割を見つけて過ごして頂けるように、日々お客様の状態変化に気付けるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には内覧に来て頂いてますので、困りごとや入居されて希望されるの聞き取りをしている。入居されてからはお便りで施設風景を伝えられるように工夫と、必要に応じてご家族への連絡は行い常に情報共有に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	内覧時に色々な角度からの聞き取りを行い、何を必要としていて何ができどんな支援が必要なのかを確認している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしさを尊重し、出来る事を継続しているよう信頼関係を築くように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や連絡があった際に、面会の設定、ご要望があった時には申し送りやタブレットで共有出来るように努めている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時の説明の際に馴染みあるものはお持ち頂けること、面会は感染症が流行らない限りは気軽に来て頂けるように心掛けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士の関係性に配慮しながら、各自が活動できる空間づくりを心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了してしまうと、なかなか関係性の継続は難しいですが別の家族の方がお困りの際の相談には積極的にお応えできるように努めています。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の思いや要望を日頃から聞き取れるようにコミュニケーションを大切にしています。毎日の申し送りやカンファレンスで情報共有できるように努めている。会話が困難な方などは表情や行動などで感情を読み取れるように努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に出来るかぎり把握するようにし、入居後は面会時やお電話でご家族様から施設で必要とする生活歴を伺わせてもらう。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの様子を把握し、午前と午後に取り組む活動を個別に対応できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護スタッフが中心となり、介護記録や日々の申し送りから課題やケアのあり方をカンファレンスや申し送りの中で検討し、お客様やご家族の様の意向と医療食の意見を鑑みて作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りはタブレットで確認出来るので、情報共有のツールとして引き続き上手に活用していく。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別のニーズに柔軟な対応が出来るように、日々スタッフと話し合いながら取り組むように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度は夏祭りや敬老会の寄席、RUN伴で主催したのど自慢に参加。様々なボランティアも読んで、お客様満足に努めている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医（内科、歯科、眼科）の定期往診を受け、ご本人の代わりに相談やお客様のご家族様へ報告を行いながら、急変時のドクターコールも対応できている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	タブレット内の介護記録とバイタルチェックシートからお客様の体調変化が読み取れるように記載し、週1回看護師がお客様の状態の確認をし変調がある場合は医師との共有に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医に相談・助言をもらいながら、お客様のご家族様が入院医療機関関係者と、早期退院に向けた話し合いに努めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に「重度化した場合の対応に係る指針」を説明し、看取りの対応に備えている。お客様のご家族様と終末期に向けた話し合いを医療機関の協力を得ながら適宜行い、看取りケアを行えるように努めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変に対するマニュアル作成および「介護事故発生時および緊急時の対応」事業所研修を実施し知識を職員間で共有している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害対策マニュアルおよび計画を作成している。非常災害対応研修を実施したり、消防計画に基づき年2回の避難訓練を行っている。消火設備点検や非常食・飲料水・物品の備蓄の確認をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃のケアで不適切な言葉かけや対応がなされていないか、定期的にチェックリストを実施している。職員同士も気を配り、介護の基本であるお客様の尊厳について事例などを用いて具体的に取り組みをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃ご本人がどうしたいのかを最優先に考え、自己決定を尊重するようにしている。職員の都合でどうすべきかを誘導するのではなく、お客様ご本人の想いに寄り添えるケアに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースでケア行わないように心掛けています。安心、安全に生活できる環境を提供し、気持ちよく過ごせるよう常に心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った身だしなみや整容に興味を持っていただけるように心掛けています。朝一番にホットタオルを提供し、気持ち良くスタート出来るよう努めている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛りつけや食器選びをして、温かい食事を美味しく召し上がって頂けるように心掛けていて、楽しく食べられる雰囲気作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や食事形態を考慮した食材・飲料の提供を心掛けている。定期的な血液検査から食事のコントロールや体重の増減などから栄養摂取状況を把握し、主治医に相談している。水分摂取量もチェックし、不足が見られる場合は飲みやすい飲料（多種類）で水分補給に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア誘導・介助、義歯洗浄を実施している。また、義歯紛失の恐れがあるお客様の義歯を一時お預かりしたり、夜間は義歯洗浄剤を使用し管理を行う。希望者は週1回の歯科往診を受け、口腔ケアや口腔の状態を確認して頂き嚥下機能維持に努めている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を確認しながらその方に合わせて誘導を促したり、食事やお茶の前後に誘導するようにしている。排泄表に基づきカンファレンスで検討し、個別に誘導のタイミングを試みている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医相談のうえ、下剤の服薬で排便を促す方と乳製品の提供および水分摂取表で最低1L/日程度の直接水分摂取に取り組んでいる。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回以上の入浴機会を提供している。浴槽に入れないお客様はシャワー浴になるが、身体を冷やさないようタオルを背部や膝元に掛けるなど個々に応じた入浴支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はフロアで過ごしていただくように促し、体操やレクを行っています。昼夜逆転をしないように努め、遅番・夜勤職員が相互協力して、ご本人のペースで居室（ベッド）に入れるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用薬は提携薬局で1週間曜日ごとに服薬管理箱を用意、倉庫（鍵付）にて保管。毎日、倉庫から担当職員が持っていく。介助時、ダブルチェック（当日パートナー）して誤薬・落薬に留意し、服薬後口腔内の確認。本人に合った形態で服薬できるよう主治医・薬剤師に相談している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事（食器拭き・洗濯物干し畳み・掃除等）はお客様ご本人に合った事を提供し気分転換の支援を心掛けている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事（花見や地域イベント）では、戸外に出かけられるよう支援している。今年度はツクイのデーサービスに遊びに行かせてもらい機械浴を体験しています。また、けやきホールに1日外出。RUN伴イベントののど自慢に全員で参加致しました。もっと出掛ける機会を検討していく。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	社内規則により施設で金銭管理はできないため、お金の所持はない。ご本人要望の物品はお客様のご家族様同意のうえ、立替金で用意する。お客様ご本人の趣味嗜好は、ご家族様にお問い合わせして用意している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お客様の要望により電話の取り次ぎや郵便の依頼があった場合、（お客様ご家族様の許可があれば）対応している。			
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	10月頃からスケッターを利用して、有償ボランティアに来てもらい短歌や落語など行っている。席の配置を工夫したり、お客様の動線確保に努め過ごしやすい空間作りに努めている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の時間を持てるような席の配置をしている。また、新聞、雑誌をご提供させて頂き、興味のある方には読んで頂いている。			
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はエアコン・換気扇・カーテン・クローゼットのみ設置で、家具・寝具・写真・置物など使い慣れたものや馴染みのものを自由にお持ち頂き配置している。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お客様が安心安全に過ごせる動線作りを心掛けています。玄関には少し休憩が出来るようなテーブルと椅子や履物を交換しやすいよう椅子も設置している。			

目 標 達 成 計 画

事業所

ツクイ小田原富水グループホーム

作成日

令和8年2月13日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	54	お客様が落ち着いて過ごせる空間づくりが出来ていない	1人ひとりに合ったリズムづくり	居室担当は聞き取りから始めお客様の意向調査と空間づくりまでを考えて行く。	12か月
2	43	排泄介助の自立支援の促進	日中のトイレに行けるようにする	排泄、排便リズムを把握していく	12か月
3	39	女性のお客様に対するおしゃれに関する支援が出来ていない。	お誕生日にお化粧品などのプレゼントをする	居室担当はお誕生日にコンセプトを決める。	12か月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。